

# 福岡市教員育成指標の活用について



指標は、それぞれの立場から、以下のような活用ができます。

## 教員志願者は・・・

福岡市の先生になるには、  
こんな力が必要なんだ。



教育実習では、こんな力が  
身に付くようにがんばろう。

こんな力を身に付けるために、  
こんな勉強をしよう。

- 福岡市で求められている教員像を把握することができます。
- 自己の学習・学修の目標や方向性を決める際の参考にすることができます。



## 教員は・・・

今の自分に、こんな力は  
身に付いているかな。

教員〇年目、こんな力も必要な。  
今年は、この研修講座を受講して  
スキルアップしよう。

ミドルリーダーとして  
役割を果たすには、  
どんな力が必要かな。

若手にアドバイスするとき  
何を伝えたらいいかな。

- 日々の実践を振り返り、今の自分に必要な資質・能力を考える際の手がかりにすることができます。
- 教育センター等で行われる研修講座を選ぶ際に、自分のキャリアステージや身に付けたい資質・能力に合った講座選択の参考にすることができます。
- 校内でOJTを進めるにあたって、先輩教員から後輩教員にアドバイスを  
する際の参考にすることができます。



## 管理職は・・・

学校経営を進めるにあたって、  
管理職として求められる力を  
発揮できているだろうか。

〇〇先生は、そろそろ〇〇期にあたるだろう。  
校務分掌の〇〇を〇〇先生に任せよう。

〇〇先生は〇〇期にあたるから、  
こんな内容を学んでほしい。  
この研修講座をすすめてみよう。



- 自校の学校経営を振り返る際の目安にすることができます。
- 校内でのOJTにおける組織的な人材育成の目安にすることができます。
- 自校の教員に対して必要な資質・能力を示し、研修講座をすすめたり、キャリアステージに応じた指導助言の手がかりにしたりすることができます。

## 教員養成機関は・・・



- 指標に示された必要な資質・能力を踏まえ、教職課程、教職大学院のカリキュラム改善の参考にすることができます。
- 教育委員会と連携した研修プログラムの研究・開発の参考にすることができます。



## 教育委員会は・・・

- 指標に基づいて研修体系を整理し、研修計画を立案します。
- 研修講座において、自己の振り返りのために活用し、セルフマネジメントを促します。



子どもの人格の完成をめざし、「学び続ける教員」であることが大切です。キャリアステージに応じて、指標を活用しながら学び続け、自らの資質・能力を高めていきましょう。